インフラマネジメント研究部会

道路(公共)インフラマネジメントに民間ノウハウが活かせるだろうか?

部会長 **中川 均**
なかがわ ひとし
一般社団法人日本観光自動車道協会
代表理事

当部会は公共インフラ、とりわけ道路インフラの維持管理等のマネジメント分野における官民連携手法を研究テーマとしている。その一環で毎年、道路運送法の民間有料道路事業者と交流しノウハウの交換と課題の共有を図っている。

今回の部会報告は座談会形式で、基調提言者として部会アドバイザーである水野高志氏（八千代エンジニアリング副社長）および事例報告者として増田真一氏（日本自動車道代表取締役）、幸野茂氏（白糸ハイランドウェイ代表取締役）の両名に参加いただき、公共道路マネジメントのあり方について民間事業者の視点から直言をいただいた。3氏の発言要旨は下のとおりである。

① 基調提言　水野高志氏から　1）今あるインフラの維持管理の重要性　2）実践事例から見た日本の現在位置（国際比較）　3）必要なアプローチの転換と行動

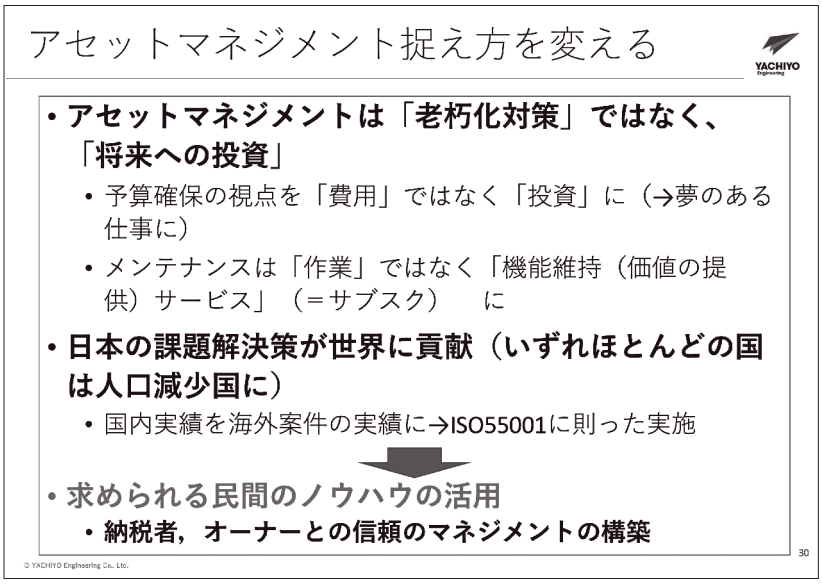
② 事例報告（日本自動車道）増田真一氏から　伊吹山（滋賀県・岐阜県）山頂へつながる伊吹山ドライブウェイの四季折々の魅力の紹介。

③ 事例報告（白糸ハイランドウェイ）幸野茂氏から長野県軽井沢町白糸の滝へとつながる白糸ハイランドウェイを「観光自動車道が地域社会に貢献するには」と題して紹介。

水野氏からは、わが国のインフラマネジメントの現在位置と今後の取り組みの視点を基調提言いただいた。わが国が抱える全般的な課題として、今後は高度経済成長期以降に整備し老朽化した社会資本（公共インフラ）が加速度的に上昇する、一方で技術系公務員の減少・不足と土木関係予算の減少が同時進行する危機的な状況が出現すること。またインフラが機能しなくなると国や地域の経済や暮らしや災害時には命が危険にさらされることを、多くの納税者である国民が知ることが重要である。しかしながら公益管理者である行政と、実務の担い手である建設やコンサルタント等の事業者がともに発信できていない。またインフラマネジメントを単なる老朽化対策なのか資産の価値創出のための将来への投資としてとらえるのか、重要な発想の転換が必要である、との提言を受けて登壇者間で意見交換が行われた。

民間道路事業者である増田氏と幸野氏からは、民間有料道路は災害対応、復旧から将来のための更新投資の資金調達、そのすべてを道路収入から確保する必要がある。したがって通行収入を上げるための努力と地域からの理解をうるため、さまざまな行動をとっている。そのひとつがアセットマネジメント（ISO 55001）の導入による、利用者を含む信頼のマネジメントの構築であるとの意見であった。

わが国の公共インフラマネジメントは、民間事業者と同様に納税者（アセットオーナー）との信頼の構築のためにアセットマネジメントが採用されるべきではないか。予算確保のための「費用」という言い方は「投資」に、また維持管理・メンテナンスは「作業」ではなく「機能維持サービス＝サブスクリプション（定期購入）」と表現を変えるべきとの具体的な提案が行われたことが印象的であった。◀



図表1　民間有料道路は、アセットマネジメント（ISO 55001）の導入により、利用者を含む信頼のマネジメントを構築している